
岐阜県立高山工業高等学校

学 校 長 浦 山 朋 征

学校住所 高山市千島町291番地 電話 0577-32-0418

1 会議の名称 平成30年度学校評議員による会議（第2回）（兼学校関係者評価委員会）

2 会議の構成 委 員 内 島 靖 夫 （株）飛驒印刷（代表取締役） 欠席

小屋垣内 浩之 小屋垣内農園（自営）

松 村 忠 典 （株）和井田製作所（総務部長）

山 下 恵美子 山下提灯（自営）

横 谷 政 恵 理容こいど（理容師）

（委員名は五十音順）

学校側 浦 山 朋 征 校長

村 田 和 宏 教頭（司会）

北 原 和 弘 事務長

岩 島 義 則 教務主任

中 口 直 也 生徒指導主事（代理）

反 中 哲 也 進路指導部長（代理）（記録）

室 谷 伸 治 工業部長

3 会議の目的 岐阜県立高山工業高等学校評議員会設置要綱に基づき、平成30年度の教育方針・重点に基づいた今年度の取組に対して評価していただくとともに、次年度への本校教育の改善・充実に資する。

4 会議の開催 平成31年1月26日（土） 14：00～15：10 高山工業高等学校 体育館

15：20～16：20 高山工業高等学校 校長室

委員4名と学校側7名の計11名が出席

5 会議の概要

（1）卒業作品展の参観

3年生が課題研究の授業で1年間かけて取り組んできた、ものづくりの成果を発表する卒業作品展を、本校体育館で1時間余り参観していただいた。作品ごとに担当生徒から工夫した点や苦心した点などの説明をした後、会場を校長室に移して会議を行った。

（2）学校長挨拶

第1回目の会議を踏まえて、1年間取り組んできた内容について報告させていただく。本校が更に活力ある教育活動を進めていくため、忌憚のないご意見をいただきたい。

(3) 感想 「卒業作品展」

- 意見 1 全体的に非常によくできていた。完成度が高く商品として売れるのではないかと思うものまであった。特に防犯ブザーは地元の特産品「さるぼぼ」のキャラクターを取り入れており、大変良くできていた。アイデアも良く、金型としての完成度も高かった。また、しつこいくらいに熱心に自らの制作物を説明してくる生徒がいた。エンジニアとしては大変必要な資質であり、将来が楽しみである。
- 意見 2 地元の小学校へも案内がされており、小さな子どもたちがたくさん来場していた。将来の進路に結びつくといよい。今回の見学で4年目になるが、前回とあまり変わらない内容のもあったが、建築インテリア科では、木製の甲冑など今までにない斬新なものが制作されており、高く評価している。昨年、農業用水から水車で発電し、照明や害獣対策に活用する提案があったが、飛騨には農業用のパイプラインがたくさん設置されているので、そのパイプラインを利用した発電など、飛騨の大きな産業である農業と工業が連携して高山から新しい提案をしていくということも考えてみてはどうか。
- 意見 3 今回初めて見学したが、高校生でこれだけのものが作れるのかと感動した。私が関わっている社会教育行事で、毎年、工業高校の生徒が小学生にもものづくり体験教室を開いてくれており大変人気である。ものづくりの楽しさを感じさせてもらった子どもたちは、出来上がった作品をうれしそうに、大切に持ち帰っている。
- 意見 4 今回は子どもたちが喜ぶものが多かったように思う。たくさん子どもたちが楽しんでる様子がうかがえ、来年以降も、また来てくれるようになってくれると良い。今回の作品の中では、木製の甲冑や茶室が特に素晴らしく印象に残った。
- 教 頭 大雪警報が発令されるのではないかと心配していたが、無事に終了し、安堵している。来場者は640名を超え、昨年より70名以上増加しており、大変ありがたいと思っている。また、委員の皆さんのご意見を次年度以降に活かしていけるよう努めていく。

(4) 学校から課題と重点の説明

- 教 頭 まず、第1回会議でいただいた3つのご意見について、その後の対応を説明させていただく。
- ①少子化の中、入学希望者を増やすためには女子生徒の入学を増やす必要があるが、本校の寮には女子生徒が入寮できないかのご意見をいただいた。女子の入寮が現状では不可能であることは前回会議でも説明したが、その後の対応として、高山市内の寄宿舎の状況について調査し2軒の下宿を把握した。いずれも斐太高校の近くでやや遠いものの、2軒とも本校生徒を男女とも受入可能との返事をいただいております。県外募集の出願者がいた場合も対応可能である。今後も学校後援会や同窓会等様々な席上で、生徒の受入をお願いしていくつもりである。
- ②募集定員を満たせない状況や、地元就職者が減少している現状は、学校だけの問題ではなく、行政や地元企業等にも問題があるのご意見については、一昨年からは行政、教育、産業など地元各界の代表者から構成される学校活性化連絡協議会の助言

を得ながら、地域と連携した魅力ある学校づくりに努めている。工業高校の学びを知ってもらうための学校紹介DVDの配付、中学校とのTV会議、各種ものづくり体験教室の実施や協力など、各種事業を報道機関等へ情報提供し、積極的にPRを行っている。今後も地域ぐるみで魅力ある高校づくりに邁進していきたい。

③教職員の資質向上についてもご意見をいただいた。年々特別な配慮が必要な生徒が増えており、生徒も多様化している。現在、職員間で情報を共有しながら専門講師による職員研修会や授業公開、各種校外研修会への積極的参加等を通じて、授業改善に努めている。今後も継続していく。今年度の生徒による授業評価では総合的な満足度について肯定的な意見が9割を超えている。

教 頭 次に各分掌等の担当者から本年度の取組と評価について、説明させていただく。

教 務 部 公開授業を行い相互に参観をおこなっており、参加教員も2割増えた。生徒からのアンケートでは、能力に応じた指導や学習評価の多面性、少人数や習熟度別授業等が学習の理解につながっていると高い回答が得られている。

生徒指導部 飛騨地区では交通事故が増えているが、本校では減少した。問題行動は全体では昨年とほぼ同じだが、無断アルバイトが増加している。遅刻は3年生が全体の約60%である。いじめは昨年と同数。SNSでのトラブルもあり、新年度は早い時期に使用方法を含めた指導を実施したい。

進路指導部 就職・進学は希望者全員が決定したが、就職も進学もしないという生徒が1名いる。就職者の割合は昨年より7ポイント下がり75%である。飛騨地域の就職者は昨年とほぼ同じの約50%。今年度は国公立大学に1名合格した。また外部公務員セミナーの活用、就職試験対策のグループワークの実施など成果につながった

工 業 部 「活力ある高校づくり」と「知財教育」の2つの研究指定事業が最終年度を迎え、ともに学科の枠を超えた活動を実践することを通じて、本校をPRすることができた。今後も地域と連携した事業を推進し、さらなる魅力ある学校づくりに努めたい。また、工業高校では各種資格の取得を推奨しており、多くの資格を取得した生徒には全国工業高等学校長協会からジュニアマイスターの称号が与えられるが、本年度は、数多くの高度な資格を取得し、その評価基準点をはるかに上回る点数を2名の生徒が獲得した。ともにジュニアマイスター（ゴールド）の称号とともに特別表彰も受けることになっている。内、1名は100点を超える極めて優秀な成績である。

(5) 協議 「本校の取組についての感想や学校への提言」

意見1 各種取組が順調に成果を上げていることがわかった。今後は女子生徒にターゲットを絞っていく必要がある。どうしても工業は男子という先入観があるが、現在、当社でも女子だから無理という仕事はほぼない。むしろ女子の方が向いているものも多く、男女雇用機会均等法の関係もあるので、女子が入学したくなるような取組が必要である。

学 校 本年度、中学校での高校説明会等で、女子生徒の好調な求人状況などを通じて説明してきたが、中には本校を希望する生徒にしか説明の機会がない中学校もある。女子生徒に工業の魅力を伝える有効な方法を検討したい。

- 意見2 多くの資格の中でも、各科の目指すべき資格と考えられる資格の取得率が悪いものがあり残念である。電気科であれば、第二種電気工事士など、各科の学習内容と関連し、仕事に直結するような資格は全員が合格してほしい。
- 学 校 実習等を通じて技術的な部分は十分合格圏内にあっても、法規や計算といった知識や理解の部分でつまづく生徒が目立っている。指導の工夫を進め、合格率を上げられるよう努めたい。
- 意見3 多くの生徒に資格取得に挑戦させてほしい。また、機械科を卒業したが、他の分野のことがやりたくなり専門学校に進学し、就職した者もいる。途中からでも他科に移ることはできないか。
- 学 校 本校では各科ごとに募集しているため、入学した科から他科に移ることはできない。県内には、1年間産業教育全般について共通に学習してから類型を選択する総合学科や、関連分野でくくり募集をする高校もある。2年次から専門分野の学習が始まるため、専門性や系統性が薄くなってしまう。それぞれにメリットやデメリットがある。
- 意見4 中学1年生時に高校の説明会があると良いのではないか。
- 学 校 本校のオープンキャンパスは、中学3年生に限定してはいない。実際に本年度は近隣中学校の2年生も参加してくれた。1年生の参加については、中学校の進路指導計画と調整し、希望があれば実施したい。また、学年や時期を特定せず、中学校の要望に基づき、TV会議による交流が実施可能であることを、地区内各中学校長宛に案内している。

(6) 会議のまとめ

今回の委員の皆様のご意見を踏まえ、今後も活力ある高山工業高校につながられるよう各種教育活動を充実させていきたい。